

第1回 SPARC Japan セミナー 2017

図書館員と研究者の新たな関係： 研究データの管理と流通から考える

A new relation between
librarians and researchers:

From a viewpoint of management and
distribution of research data

2017年 9月 13日 (水)

13:00 - 17:20

国立情報学研究所 19階会議室
(動画中継予定)

▶ 倉田敬子

慶應義塾大学

▶ 西菌由依

鹿児島大学 /
JPCOAR研究データタスクフォース

登壇者

(敬称略)

▶ 大澤剛士

農研機構 農業環境変動研究センター

▶ 片岡朋子

お茶の水女子大学 /
JPCOARメタデータ普及タスクフォース

日本における機関リポジトリは、公開されているものだけでその数700を超えており、世界でも類を見ないくらい大きな規模に成長してきた。こうした機関リポジトリは、主に大学の教育研究活動の成果である学術情報の収集・組織化・保存及び発信といった役割を担い、オープンアクセス推進の一翼を担ってきたが、更なる推進にあたっては、研究活動の過程で生み出される研究データについても同様の仕組みを構築する必要がある。

折しも平成28年7月には、日本における機関リポジトリを振興・相互支援することを目的として、「オープンアクセスリポジトリ推進協会 (Japan Consortium for Open Access Repository : JPCOAR)」が設立され、研究データを含む学術情報の管理・流通の発展が期待される

ところである。オープンアクセスリポジトリを効果的に運用していくためには、図書館員にとってはこれまであまり触れる機会がなかった研究データを管理する方法やリポジトリを通じた図書館による新たな研究者支援手段を理解する必要がある。また、研究者にとっては、研究データのオープン化が生み出す新たな価値を認識し、図書館員との連携によりリポジトリの積極的・自発的な活用を目指していく必要がある。

以上の状況を踏まえて本セミナーでは、図書館員と研究者が、研究データをいかに管理・流通させていくかという視点を共有し、そこからもたらされる両者の新たな関係について考えてみたい。

主催：SPARC Japan (国立情報学研究所)

共催：研究データ利活用協議会 / 協力：オープンアクセスリポジトリ推進協会

SPARC*Japan

NII

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics

プログラムおよび登壇者 (敬称略)

13:00-13:10

開会挨拶・趣旨説明

13:10-13:55

研究者にとってのデータの意味と大学におけるデータ管理への期待

倉田敬子
慶應義塾大学文学部

13:55-14:40

学術リポジトリは研究者と図書館員を繋げるのか？

大澤剛士
農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター

14:40-15:00 休憩

15:00-15:45

研究データ管理の組織的支援と図書館の役割について

西園由依
鹿児島大学 / JPCOAR研究データタスクフォース

15:45-16:30

新たな学術情報流通においてJPCOARスキーマが果たす役割

片岡朋子
お茶の水女子大学 / JPCOARメタデータ普及タスクフォース

16:30-16:40

研究データ利活用協議会(RDUF)紹介

武田英明
研究データ利活用協議会 / 国立情報学研究所

16:40-17:10

全体議論

17:10-17:20

閉会挨拶

- 参加費 : 無料
- 参加申込 : 下記URLよりお申し込みください(定員60名)。
<http://www.nii.ac.jp/sparc/event>
- 申込締切 : 2017年9月11日(月)(定員に達し次第締切)
- その他 : 当日はWeb上での動画中継を予定しております。
詳細はWebサイト(上記URL)をご参照ください。
- お問い合わせ先 : 国立情報学研究所SPARC担当
E-mail: co_sparc_all@nii.ac.jp
FAX: 03-4212-2375

